慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	學童の虚僞
Sub Title	
Author	西谷, 謙堂(Nishitani, Kendo)
Publisher	三田哲學會
Publication year	1941
Jtitle	哲學 No.23 (1941. 8) ,p.191- 233
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000023-0191

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

學童の虚僞

西谷謙堂

一　調査意圖

先づシュテルンに從つて、虚僞の概念を「他人を欺くことによつて、一定の目的を達成する爲に用ゆる意識的不正直なる供述」と規定して置く。故に虚僞には不正直の意識、欺瞞の意圖及び合目的性といふ三個の特性が必要であり、而して虚僞は第一及び第二の特性によつて記憶の誤謬から區別され、第三の特性によつて空想的供述の誤謬から區別される。

兒童が嘘をつくといふことは、吾々の日常屢經驗するところである。而して虚僞は危險なる習慣、それどころか墮落の始めともなり得るので、兩親及教育者等は等しく之を憂へ、その矯正に惱んでゐる。フレーベルは「若し世の中に絶對的惡と

いふものがあるとすれば、それは虚偽といふ悪である。何故なれば虚偽は凡ての悪の起源であるからである」[二]といひ、ロックは「又時折兒童が虚言を吐いたならば虚言といふことは紳士の名や性格には全然相應しからざるものであるからして、名譽あるものは如何なる人と離も、虚言の爲に非難せらるゝことに堪へざる如き性質のものとして、人をして最も卑賤なる程度の人に貶し、又人をして人類の最も輕蔑すべき部分に伍せしむる最も不名譽と判斷せられ且つ又身分ある人々と交際しようと欲するか或はこの世に於て人々の尊敬と名譽とを得ようと欲する如何なる人々にも堪へ得ない徴候であるとしてその面前で話してやらねばならぬ」[三]といつてゐる。理論教育學も已に久しく之が教育を重視してゐる。[四]更に心理學は從來虚偽に關し診斷的に或は豫防的に夥しき研究をなしてゐる。[五]

幼兒に現はるる虚偽は大部分それ程重大視さるべきものではなく、從つて之を以て直ちに劣等なる性格又は卑賤なる情操の徴候なりと斷定すべきものではない。フェルスターの言ふが如く、[六]幼兒の虚偽を取扱ふ場合、成人の最も屢陥り易い誤謬は、云はゞ警察官的態度を以て幼兒の複合的精神狀態に入り込んで、不正直な

供述の由來する極めて多樣なる動因を明らかならしめない點に存してゐると考へられる。抑々幼兒は甚だしく空想の世界、お伽話の世界に住んで居り、(七)かくして好んで空想的供述をなし勝である。故にこの空想的供述を以て虛僞なりと考ふることは出來ない。然し空想があまりに度を越すことは、假象と實在との必要な區別に對して幼兒を鈍感ならしめ、それによつてその心の中に虛僞への傾向を芽生えしむることにもなるので、それに適度の修正を加へねばならぬ。シュテルンはたゞ外見上虛僞の印象を與へる行動樣式を、假裝虛僞(Scheinlügen)と名づけてゐるが、(八)それは正しい。この假裝虛僞の大部分は今述べた空想に基づくのであるがまた知覺の不正確に、記憶力の薄弱に、被暗示性に、觀相的知覺に或は言葉と思考とが尙情意的樣式と卽事的樣式との間の浮游狀態に存してゐる點に基づいてゐるのである。この種の虛僞は四歲頃に最も頻々と現はれるといはれてゐる。

トムリルッは八歲から十四歲までの兒童によつて作られた自由作文千七百を調べたが、その結果に依れば著しく空想的なるものは、たゞ男兒(十歲)一名のもののみであり、又七歲から十二歲までの二百四十九名に就いて調査したシャロッテ・ビ

ューラーとハースとは、意識的空想的虚偽を唯一例見出だしたのみであると報告してゐる。(九)

要之、幼兒期に於ける虚偽は、その特殊な時期の必然的隨伴現象であるが、學童期に於ける虚偽は大部分それと趣を異にしてゐるものと解せられる。

本調査に於て筆者はマリア・ツイリッヒの研究(一〇)に吟味を加へ、學童期の正常及び特殊兒童が如何なる問題に而も如何なる程度に虚偽するか、虚偽に關する都會兒童と農村兒童との差異、男女兒童の差異、虚偽と發達及び虚偽と學業成績との關係等の問題を取扱つた。(一一)

本調査は昭和十年九月から昭和十一年三月の間に行はれた。

(一) W. Stern : Psychologie der frühen Kindheit, 1930, S. 493.

(二) 原田助校閲　ハウ女子編　フレーベル、人の教育、一七八頁

(三) 小林澄兒　西谷謙堂　著　ロックの哲學と教育思想、一八二頁

(四) 殆どすべての理論教育學が之を重視してゐる。二、三の例を擧げれば、P. Natorp : Sozialpädagogik, 1925, S. 112 ff. W. Foerster : Jugendlehre, 1919, S. 311 ff. E. Otto : Allgemeine Erziehungslehre, 1928, S. 235 ff. ケルシェンシュタイナーは直接虚偽を取扱つてはゐないが、理智的判斷力の養成に對し

と道德的判斷力の養成を說くとある。 G. Kerschensteiner : Charakterbegriff und Charaktererziehung, 1929, S. 248 ff.

(五) 從來の文獻については、M. Zillig : Experimentelle Untersuchungen über Kinderlüge, *Zeitschrift für Psychologie* Bd. 114, 1930. の脚註 E. Meumann : Vorlesungen zur Einführung in die Experimentelle Pädagogik und ihre psychologischen Grundlagen, 1911. Erster Band. S. 532. の脚註、その他、W. Stern, の著書、J. Ruttman : Allgemeine Schülerkunde, 1917, S. 188—189. 等に集錄されてゐる。S. Hall は兒童の虛僞を「空想的虛僞」、「義雄的虛僞」、「利己的虛僞」及び「病理的虛僞」に分類してゐる。スタンレー・ホール著、元良勇次郎、中島力造、遠藤水城、青木宗太郎 譯、青年期の研究、二一七—二二一頁、 J. Fröbes : Lehrbuch der experimentellen Psychologie 1929, Zweiter Band. S. 449—450. に依る。

H. Schoeps は「空想的虛僞」「義勇的虛僞」及び「豫防的虛僞」とを擧げてゐる。H. Schoeps : Kinderlügen, ihre Motive und ihre Behandlung. 1931, S. 8 ff.

(六) W. Foerster : Jugendlehre, 1919, S. 314—315.

(七) 幼兒の空想は本稿に於ては別問題である。

(八) W. Stern の前揭の書、S. 494.

(九) O. Tumrilz・Einführung in die Jugendlehre, 1925, Erster Band, S. 133.

(一〇) M. Zillig の前揭の論文

(一一) 筆者は本調査を極めて簡單に第九回應用心理學會及び第二回東西聯合應用心理學會に於て分割報告した。

二　被調査兒童

(1) 中流並に中流以上の家庭の子弟を含む東京山手某小學校（第三學年より第六學年まで）　男二九一　女二六五　計五五六

(2) 千葉縣農村某小學校（第三學年より第六學年まで）　男八二　女六六　計一四八

(3) 特殊教化團體　1. 東京某少年指導會　男一七　計一七
　　2. 千葉縣某學園　男一八　計一八

合計　男四〇八　女三三一　計七三九

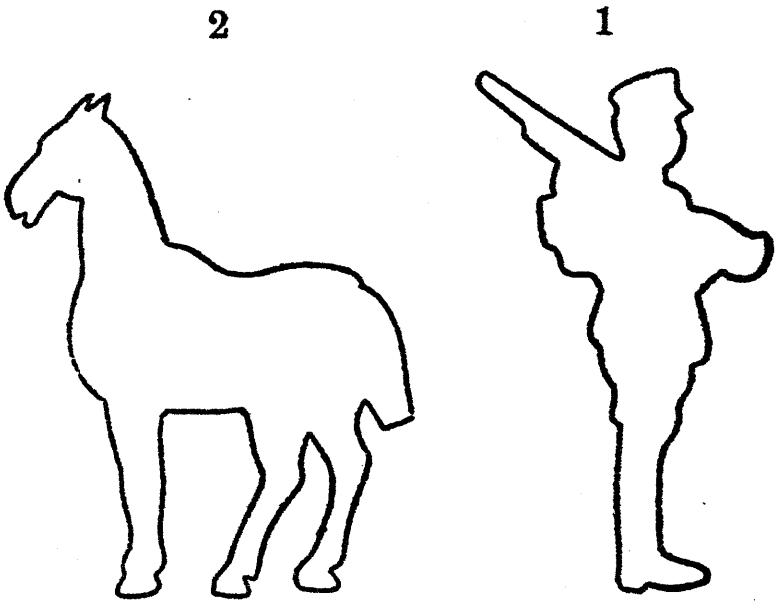
三　調査方法及び行動觀察

兒童の虛僞を調査する爲には、どうしても兒童に虛僞する機會を與へて、その行動を吟味しなければならない。かくの如き方法に對しては、倫理的乃至敎育的立場より果して適當なるか否かの疑問が提出されるかも知れない。然し筆者はマリア・ツイリッヒ(一)と共に全く差支ないと信じてゐる。成程兒童の目の前に「落し穴」が作られてはゐるが、兒童はその「落し穴」に陷るやうに强ひられはしない、且この「落

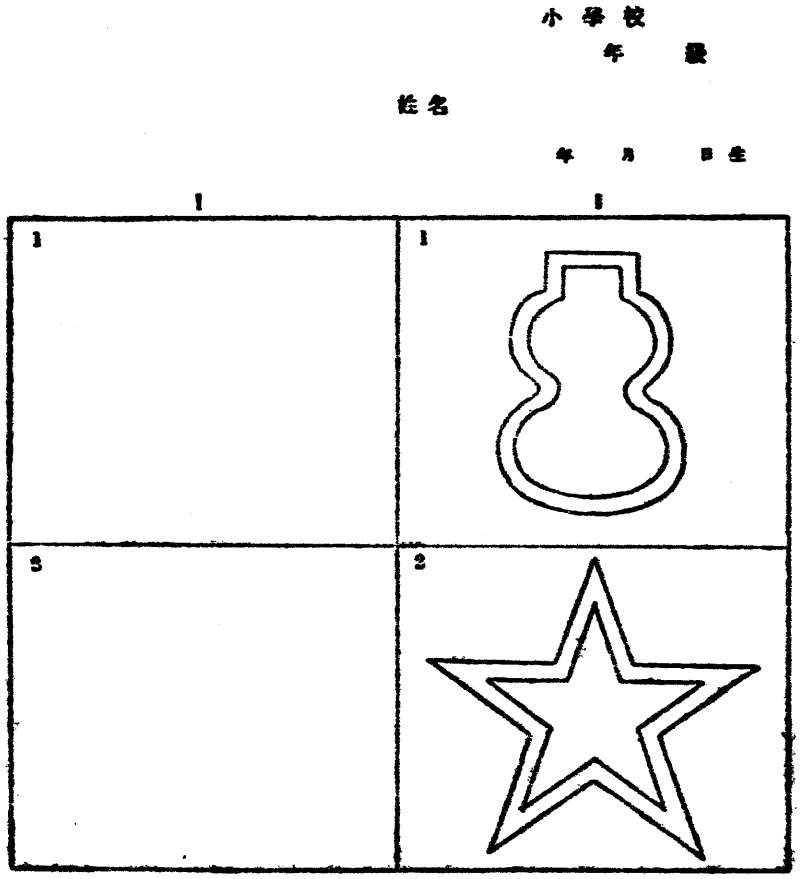
し穴に陥らないことによつて、兒童は最もよく己れの眞理愛好の心を表明することになるからである。

本調査は五部門より成り、團體的に鉛筆を以てする作業であつた。

第一部門(檢査方法)



第一圖　檢査第一部門の刺戟



第二圖　Ⅰは檢査第一部門の描畫部位
Ⅱは檢査第二部門の刺戟

小學校
年　級
姓名
年　月　日生

1	11
2	12
3	13
4	14
5	15
6	16
7	17
8	18
9	19
10	20

第三圖　檢査第三，第四及び第五部門の記入用紙

高さ五・六糎、厚さ〇・八粍のボール紙製の精細に切り拔かれた銃を肩にせる右向きの歩兵及び高さ五・四糎、厚さ〇・八粍のボール紙製の左向きの馬(第一圖)、各一個と用紙(第二圖)とを各兒童に與へ、「僕が用意ーはいといつたらこの兵隊さんと馬とを見て、1、2(用紙を以て說明す)の順序に、大きさと形とを出來るだけ、これ(刺戟を指示す)に近いやうに、そして成るべく速く描いて下さい。でもこれ(刺戟)を紙の上に載せて滅どつて(このところよく說明す)描いてはなりませんよ」といふ敎示を與へ、十分理解せるを確めて後、「用意ーはい」の合圖によつて作業せしめた。時間は約十五分。

第一部門(行動觀察)

この檢査に於て筆者は恰も全く監視してゐないかの如く裝つて、云はゞ假面の背後から兒童に氣づかれないやうに而も兒童の行動を出來るだけよく觀察した。それによれば殆どすべての兒童は非常に面白さうに、活潑にそして誰よりも立派に描かうとする態度を以て作業してゐたやうである。然しその際兒童の中には、監督者を時々覗つたり、監督者の目をかすめたりしながら、刺戟を紙上に載せて緣どつて描くか或は少しづゝ載せて描くことを續けるか或は描き終つてから刺戟を載せて見て不適合の箇所を修正するなど敎示に從はない者が觀察された。一般的に云へば、作業要領は逐年的に上達して行くやうであり、男兒は比較的開放的であるが、女兒は自分の作業を陰蔽するに拘らず、他者の作業を覗ふ傾向を有つことが觀察された。尙下級生に於ては作業の見事な出來榮えを誇示する傾向が見出だされ、更に「載せてかいてゐる」「載せてかいてゐない」といふやうな口論が諸所に發生し、筆者は微苦笑を禁じ得なかつた。かゝる傾向は以下諸部門の檢査に於て等しく觀取された。勿論檢査の目的上兒童の行動に何等の制限をも加へなかつた。

第二部門(檢査方法)

外形の高さ六・二糎、內形の高さ五・四糎、兩圖形の間隔四粍の蠟筆圖形及び外形の高さ七糎、內形の高さ五糎、兩圖形の間隔四粍の星形圖形とを印刷して與へ(第二圖Ⅱ)、作業要領を黑板によつてよく說明し、十分理解せるを確めた後、先づ刺戟をよく視せて置いて、「僕が用意―はいといつたら、眼を閉ぢて鉛筆でこの框(四粍の間隔)の中に線をひいて下さい。框からはみ出さないやうにひくんですよ」といふ敎示を與へ、眼をあけたまゝ先づ出發點に鉛筆を置かしめ、「用意―はい」の合圖によつて作業せしめた。時間は約六分。

第一部門と第二部門の檢査とを「描畫檢査」と名づけ、これによつて名望欲(Geltungssucht)を主要動機とし、特殊能力を欺き誇示せんとする主要目的より生ずる虛僞を吟味せんとする。

第二部門(行動觀察)

この檢査に於ても兒童は非常なる喜びの興奮を以て作業し、やがて期せずして諸所に哄笑や失笑を捲き起した。而して哄笑或は失笑した兒童は大體に於て正直に敎示に從つた者と認められる。蓋し哄笑或は失笑は自己の意外な作業に對する明瞭な一指標であるからである。然し兒童の中には第一部門の檢査の場合と同樣に、監督者や同僚に氣づかれないやうに最初から、薄く兩眼を開いて作業する者、或は作業の一部一部に、或は半分ほどにも兩眼を薄くあけて作業する者など

が觀察された。下級生にはやはり自分の見事な作業を誇示する傾向が現はれた。更に「眼をあいてかいてゐる」「ずるいずるい」と連呼する者「眼をつぶつてゐるじやないか」と實演しつゝ應酬する者等却々活潑な行動が觀取された。兎に角興奮は容易におさまらなかつた。

第三部門(檢査方法)

この部門の檢査は「虚構計算檢査」と稱し得べく、主として名譽欲(Ehrgeiz)を動機とし、優れた學業成績を欺き誇示せんとする目的より生ずる虚僞を吟味するに在る。刺戟は學年に應じて困難度を異にする加算と減算とを含む暗算で、問題は兒童に可能なるものと不可能なるものと夫々五題宛ある(特殊教化團體兒童には第三學年の問題を課した)。不可能なる問題とは、計算の中に少くとも必ず一箇所に負數が含まれてゐる問題であり、尙念の爲豫め擔任の先生に、負數を處理し得る兒童の有無をたづね、且數式を相當の速度で讀んだ。問題は左の通りである。

講習會書

第三學年

1) 8+2+5−10=5

2) 13+8−6+3=18

3) 40−15+8−4=29

四年編 (* 印は不可能)

1) 5+8−7+10=16

*2) 3+8+5−18+2=0

*3) 6+4+7−19+5=3

4) 10+15−13−2+5=15

*5) 5+26−18−14+3=2

*6) 10+6+4−20−5+10=5

7) 35−20+5+4+4=28

8) 50—15−10+5+3=33

9) 75—23+15+4+6=77

*10) 65−32−21+5−22+15=10

第四學年

練習問題

1) 15+8+13−9+4=31

2) 87−18+2−11+15=75

3) 90−17+8+17−19=79

問題 (* 印は不可能)

1) 35−20+6+7+3=31

*2) 65−32−21+5−22+15=10

3) 50−13+8−17+10=38

*4) 33+18−32+9−35−7+21=7

5) 87−16−24+8+15=70

*6) 47+14−37+7−34+26=23

*7) 57−19+3−37−9+15=10

8) 65−10+7−22+10+5=55

9) 97−15+5+3−40−15=35

*10) 75−17+3−43−20+30=28

第五學年

練習問題

1) 16+7+14−9+12=40

2) 83−15+9−15+17=79

3) 87−18+2−11+5=65

問　題（* 印は不可能）

1) 35−20+5+8+7=35

*2) 68−32−17+8−38+6+10=5

3) 50−14+5−10+5+4=40

4) 65+12−18−19+13−7=46

*5) 57−19+7−39+5−18+30=23

*6) 33+18−32+7−17+2−13+10=8

7) 60−10+7−11+2−20=28

*8) 75−17+5−43+15−38+15=12

*9) 95−37−39+8−32+10+2=7

10) 87−16−31+5+3+12=60

第六學年

練習問題

1) 16+8+11+5−15=25

2) 83−15+9−16+18=79

3) 92+3−18+2−12=67

問題 (* 印は不可能)

1) 37−18−7+19+8=39

*2) 64−46+27−18+3−37+19=12

*3) 42−27+19+27−35−17+5=14

*4) 95−37−39+8−32+10+2=7

5) 60−10+7−11+2−20=28

6) 45−17−21+18+15−0=40

7) 11＋21＋32－19－37＋18＝26

*8) 32＋27－48＋9－16＋2－18＋30＝18

*9) 57－19＋7－39＋5－18＋26＋6＝25

10) 47－19＋27－30＋10－5＝30

以上の問題に對して「今度は算術の試驗をいたします。そして僕は皆さんの中で誰が算術を一番うまくやるかを見たいんです。僕は皆さんに順々に十題の長い聽暗算を言つて行きます。それには足したり、引いたりするのがまぢつてゐます。僕が數字を言つて行く間に、皆さんはそれを頭の中で速く計算して下さい。一題終ると僕がその正しい答をいひます。それで僕のと同じ答になつた人はこの紙(豫め第三圖の如き記入用紙を配布す。)の1番なら1のところに○印を書くんです。それから僕のと違つた答になつたか出來なかつた人は×印を書くんです」の敎示を與へ、十分の理解を確め、練習問題を課した後實驗にとりかゝつた。時間は約十分乃至十五分。

第三部門(行動觀察)

この檢査に於ても下級生は不可能の問題に得意然として○印を附し、胸を張り己れの算術能力を他に誇示せんとする態度を示す者が可なり觀察された。然し上級生の中には出來ない爲に見るも可哀想な位に悲觀の態度を示してゐるものも可なり見受けられた。そこで終了後、出來なくも差支へないのだと慰める必要

があつた。下級生に對しては慰める必要は全くなかつた。

第四部門(檢査方法)

この部門の檢査は自己評價檢査と稱し得べく、羞恥(Scham)を主要動機とし、個性の消極的方面を陰蔽し、積極的方面を欺き示さんとする主要目的より生ずる虚僞を吟味するにある。小學校第一學年乃至第三學年第一學期までの修身書より選出した左の如き性格並に行動に關する積極的方面及び消極的方面の判斷を夫々十個宛を刺戟として與へ、靜かに通讀せしめ、その内容が自分の性格及び日々の行動に適合するか否かを自問せしめ、適合する場合には、豫め配布した記入用紙の該當番號に○印をつけさせた。但し第三學年には先づ全部讀みきかせ、且十分理解したか否かを確めた後に一題毎に讀みきかせて記入せしめた。

たゞ、時間が僅少の爲、反省の時間を十分に與へ得なかつたことは遺憾であつた。

問題(*印は積極的判斷)

*(一)　私ハ國旗ヲ大切ニイタシマス。

(二)　私ハ先生ノイフコトヲキヽマセン。

(三)　私ハ少シノコトニ怒リ友達ノ過ヲ許シマセン。

*(四)　私ハオ父サン、オ母サンニ孝行ヲツクシマス。

*(五)　私ハ自分ノコトヲ自分デイタシマス。

(六)　私ハ夜早クネマセン。

*(七)　私ハ非常ニキレイデアリマス。

(八) 私ハ親切デハアリマセン。
(九) 私ハ品物ヲ丁寧ニシマセン。
*(十) 私ハ毎日必ズオサラヒヲシマス。
*(十一) 私ハ友達ト仲ヨクシマス。
(十二) 私ハ生キモノヲアハレミマセン。
*(十三) 私ハ正直デアリマス。
(十四) 私ハ朝早ク起キマセン。
*(十五) 私ハ利巧デアリマス。
(十六) 私ハヨイ子供デハアリマセン。
*(十七) 私ハ禮儀正シクアリマス。
(十八) 私ハ約束ヲマモリマセン。
*(十九) 私ハ友達ノヨイコトヲホメマス。
(二十) 私ハ色色ノキマリヲ守リマセン。

第四部門(行動觀察)

この部門に於ても他の部門に於けると同樣に、下級生は堂々と積極的判斷に○印を附し、之を他に誇示する傾向あるに反し、上級生は陰蔽して積極的判斷に○印を附してゐるやうであつた。この傾向は女子に著しかつた。尙この場合にも「嘘

をついてゐる」とか「嘘ぢやない」とかの如き口論の應酬が諸所に展開された。

第五部門(檢査方法)

この部門の檢査は單に「質問檢査」と稱すべく、主として自慢欲(Renommierstucht)の動機と意氣揚々の目的より生ずる虚偽を吟味するに在る。方法としては左の如き十個の質問を提出して、筆答を求めた。問題を十分理解せしめたことは、他の部門の檢査に於けると同樣である。この部門は特殊教化團體兒童には省略された。

問題

(一) アナタハ自分ノ本ヲ何冊持ツテキマスカ。
(二) アナタノオ父サンハ外國ニ行ツタコトガアリマスカ。
(三) アナタノオ母サンハ外國ニ行ツタコトガアリマスカ。
(四) アナタハ一度ニイクツリンゴヲ食ベルコトガ出來マスカ。
(五) アナタハ自分ノ下駄ヲ何足持ツテキマスカ。
(六) アナタハ休マズニ何時間アルケマスカ。
(七) アナタハ毎日何時間ベンキャウシマスカ。
(八) アナタハ自分ノ着物(洋服ヲ入レナイ)ヲ何枚持ツテキマスカ。
(九) アナタハ毎日、オコヅカヒヲイクラツカヒマスカ。
(十) アナタハ遊ブコトガキラヒデスカ。

第五部門(行動觀察)

この部門の檢査も殆どすべての兒童によつて、特に下級兒童によつて非常な興奮を以て迎へられた。兒童等は互に空想とも覺しき供述を交換し合つてゐるやうであつた。さうかと思ふと「嘘をついてゐる」「そんなに持つてゐないじやないか」「馬鹿なことをいふのはよせ」「嘘じやない」「君は知らないじやないか」といつた具合の口論、それどころか危く摑み合ひになりさうな場面が屢見受けられた。然し恰も着物や書物の視覺心像を手賴りにしてゐるかのやうに、兩眼を閉ぢて一枚、二枚、一冊二冊と指折り數へてゐる兒童のあつたことはいふまでもない。(三)

三　檢査の結果

以上五部門の檢査に於て欺瞞の意圖が作業全體に存續してゐるか或はその一部に存してゐるに過ぎないかは或程度無視し、又兒童には虚僞と無意識的欺瞞との間の移り行きも屢生起するであらうが、それは普通の兒童に於ては、猶常に一定の目的に用ひらるゝものと考へて差支あるまい。又虚僞せんとする兒童の心的

衝動は、時に應じて異り、極めて複合した性質を有するであらうが、結局は同じ主要動機に還元されうるであらう。

第一部門

この部門の檢査に於ては、兒童が虛僞をなしてゐるか否かは描かれた作業の上に刺戟を載せて見ることによつて極めて容易に鑑定される。第一部門の行動觀察の項に述べた如く、兒童の中には、敎示に反して刺戟を紙上に載せて緣どつて描いてゐる者、或はある箇所だけ、特に急所だけを載せて描いてゐる者、或は數箇所を載せて描いてゐる者、或は先づ敎示に從つて描いて見たものの刺戟とあまり懸隔あるを發見したものか、それを消して刺戟を載せて描き改めたことの明瞭なる者等種々の型が見出だされた。上級に進むに從つて要領がよくなつて行つた。

第二部門

この部門の檢査に於て、四粍の間隔內を兩眼を閉ぢて辿ることは成人にすら絕對に不可能(筆者は二十數回練習しても尙完全に辿ることは出來なかつた)であるが故に、敎示に從つたか否かは容易に鑑定される。この場合にも作業全體を通し

て兩眼を開いてゐたと見做される者、一部分兩眼を開いたと見做される者等が明らかに觀取された。

第一第二の兩部門に於ては作業全體に虚僞した者と作業の一部に對してのみ虚僞した者とを區別せず等しく虚僞者の中に入れた。

第三部門

この部門の檢査に於ては不可能な問題に〇印を附してゐるか否かに依つて、虚僞せるか否かを容易に判別することが出來る。

第一部門、第二部門及び第三部門の數量的結果は第一表、第二表及び第三表の通りである。第一部門及び第二部門には二箇の虚僞可能數が含まれてゐるので、2及び1の欄は夫々その數だけ虚僞せる者の百分率を示し、〇の欄は全く虚僞せざる者の百分率を示し、第三部門には五箇の虚僞可能數が含まれてゐるので、5 4 3 2 1の欄は夫々その數だけ虚僞せる者の百分率を示し、〇の欄は全く虚僞せざる者の百分率を示す。

第一表（東京山手某小學校）

檢査第一，第二，第三ノ各部門ニ於テ學年別及ビ性別的ニ見タル虚僞百分率。第一，第二部門ノ 2，1 ノ欄及ビ第三部門ノ 5,4,3,2,1 ノ欄ハ夫々該數ダケ虚僞セル者ノ百分率ヲ示シ，0 ノ欄ハ夫々全ク虚僞セザル者ノ百分率ヲ示ス。

學年別	性別	虚僞可能數	第一 男 291	第一 女 265	第二 男 291	第二 女 265	第三 虚僞可能數	第三 男 291	第三 女 265
三年	男 59	2	5	16	66	65	5	30	12
							4	24	28
		1	37	32	19	20	3	20	33
							2	14	23
	女 60	0	58	52	15	15	1	7	3
							0	5	0
四年	男 64	2	30	20	25	55	5	1	15
							4	5	11
		1	34	24	27	15	3	41	15
							2	22	13
	女 54	0	36	56	48	30	1	17	22
							0	14	24
五年	男 61	2	10	11	56	61	5	0	2
							4	0	11
		1	38	28	15	15	3	0	15
							2	2	33
	女 57	0	52	61	30	23	1	18	25
							0	80	14
六年	男 107	2	25	28	13	44	5	0	0
							4	0	4
		1	39	26	26	23	3	0	12
							2	2	23
	女 94	0	35	46	61	33	1	14	23
							0	84	38

第二表（千葉縣農村某小學校）

檢査第一，第二，第三ノ各部門ニ於テ學年別及ビ性別的ニ見タル虚僞百分率。第一，第二部門ノ 2，1 ノ欄及ビ第三部門ノ 5,4,3,2,1 ノ欄ハ夫々該數ダケ虚僞セル者ノ百分率ヲ示シ，0 ノ欄ハ夫々全ク虚僞セザル者ノ百分率ヲ示ス。

學年別	性別	總數	第一 男 82	第一 女 66	第二 男 82	第二 女 66	第三 虚僞能數	第三 男 82	第三 女 66
三年	男 26	2	27	13	50	100	5	0	0
							4	19	38
		1	19	25	35	0	3	12	6
							2	23	38
	女 16	0	54	62	15	0	1	23	18
							0	23	0
四年	男 24	2	12	0	38	81	5	0	19
							4	0	31
		1	17	6	33	6	3	13	12
							2	16	25
	女 16	0	71	94	29	13	1	21	0
							0	50	13
五年	男 9	2	11	0	44	31	5	0	0
							4	0	0
		1	89	0	33	31	3	0	6
							2	11	13
	女 16	0	0	100	22	38	1	22	13
							0	67	68
六年	男 23	2	13	11	56	83	5	0	0
							4	0	0
		1	43	39	9	11	3	9	0
							2	0	11
	女 18	0	43	50	35	6	1	13	11
							0	78	78

第三表

檢査第一，第二，第三ノ各部門ニ於テ特殊教化團體別ヨリ見タル虚僞百分率

第一，第二部門ノ 2，1 ノ欄及ビ第三部門ノ 5,4,3,2,1 ノ欄ハ夫々該數ダケ虚僞セル者ノ百分率ヲ示シ，0 ノ欄ハ夫々全ク虚僞セザル者ノ百分率ヲ示ス。

團體別	性別	檢査部門	第一	第二	第三	
			男 35	男 35	男 35	
東京某少年指導會	男 17	2	35	41	5	0
					4	6
		1	6	29	3	12
					2	41
		0	59	29	1	17
					0	24
千葉縣某學園	男 18	2	11	22	5	0
					4	6
		1	33	17	3	6
					2	28
		0	56	61	1	22
					0	28

第一部門、第二部門及び第三部門に就いて、東京山手某小學校と千葉縣農村某小學校とを學年別(男女兒童合併)に比較したものは第四表である。第一部門と第二部門の2及び1の欄は夫々その數だけ虚僞せる者の百分率を示し、0の欄は全く虚僞せざる者の百分率を示し、第三部門の5 4 3 2 1の欄は夫々その數だけ虚僞せる者の百分率を示し、0の欄は全く虚僞せざる者の百分率を示す。各欄の上段

は東京山手某小學校、下段は千葉縣農村某小學校の虚僞率を示す。

第四表

検査第一，第二，第三各部門ニ於テ學校別，學年別(男女合併)的ニ見タル虚僞百分率。

第一，第二各部門ノ 2，1 ノ欄及ビ第三部門ノ 5,4,3,2,1 ノ欄ハ夫々該數ダケ虚僞セル者ノ百分率ヲ示シ，0 ノ欄ハ夫々全ク虚僞セザル者ノ百分率ヲ示ス。各欄ノ上段ハ東京山手某小學校，下段ハ千葉縣農村某小學校

學年別	總數に對する虚僞可能數	第一	第二	第三
三年(男女合併)	2	11	66	21
				0
		21	69	26
				26
	1	34	19	27
				10
		21	21	18
				21
	0	55	15	5
				21
		57	9	2
				14
四年(男女合併)	2	25	39	7
				7
		7	55	7
				12
	1	30	21	29
				12
		12	22	18
				20
	0	45	40	19
				12
		80	22	18
				35
五年(男女合併)	2	10	41	1
				0
		4	36	5
				0
	1	33	24	3
				4
		32	32	17
				12
	0	57	35	21
				16
		64	32	48
				68
六年(男女合併)	2	27	27	0
				0
		12	68	2
				0
	1	33	25	6
				5
		42	10	11
				5
	0	40	48	18
				12
		46	22	63
				78

第一部門、第二部門及び第三部門の虚僞率を合計すると第五表及び第六表の如くなる。この場合には九箇の虚僞可能數が含まれてゐるので、表中の9 8 7 6 5 4 3 2 1の欄は、夫々その數だけ虚僞せるものの百分率を示し、0の欄は全く虚僞せざる者の百分率を示す。

第五表

檢査　第一，第二，第三部門ヲ合計シテ學校別，學年別及ビ性別的ニ見タル虚僞百分率。

9,8,7,6,5,4,3,2,1 ノ欄ハ夫々該數ダケ虚僞セル者ノ百分率ヲ示シ，0 ノ欄ハ夫々全ク虚僞セザル者ノ百分率ヲ示ス。

學校別	學年	性別	虚僞可能數	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
東京山手某小學校	三年	男	59	2	12	22	19	7	23	7	5	3	0
		女	60	0	8	17	20	30	13	7	5	0	0
	四年	男	64	0	2	6	9	16	26	22	6	5	8
		女	54	4	2	11	9	16	15	11	15	13	4
	五年	男	61	0	0	0	0	5	0	15	29	28	23
		女	57	0	2	3	11	21	23	16	7	17	0
	六年	男	107	0	0	0	0	1	6	11	37	24	21
		女	94	0	0	7	1	14	18	23	17	14	6
千葉縣農村某小學校	三年	男	26	0	4	4	15	15	12	19	27	4	0
		女	16	0	6	25	13	6	27	19	0	0	0
	四年	男	24	0	0	4	0	8	21	8	21	21	17
		女	16	0	6	13	31	6	13	13	18	0	0
	五年	男	9	0	0	0	0	0	22	11	22	22	22
		女	16	0	0	0	0	0	6	19	19	31	25
	六年	男	23	0	0	0	0	9	4	35	26	13	13
		女	18	0	0	0	0	11	17	22	39	6	6

第　六　表

檢査　第一，第二，第三部門ヲ合計シテ特殊教化團體別的ニ見タル虚僞百分率。

9,8,7。5,4 3,2,1 ノ欄ハ夫々該數ダケ虚僞セル者ノ百分率ヲ示シ，0 ノ欄ハ夫々全ク虚僞セザル者ノ百分率ヲ示ス。

團體別	性別	虚僞可能數	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
東京某少年指導會	男	17	0	6	0	12	17	12	12	23	12	6
千葉縣某學園	男	18	0	0	0	0	5	11	28	39	0	17

第七表は虚僞せる者と虚僞せざる者とを團體別に表はしたものである。表中の數字は百分率を表はす。

第七　表

團體別的ニ見タル虚僞セル者ト虚僞セザル者トノ百分率。

團體別	虚僞，不虚僞	虚僞セル者	虚僞セザル者
東京某小學校		87	13
千葉縣農村某小學校		90	10
東京某少年指導會		94	6
千葉縣某學園		83	17

第八表は虚僞せる者と虚僞せざる者とを男女の性別的に表はしたものである。但しこの場合、男女兒童を同數と見做してゐる。男女の各欄の上段は東京山手某小學校、下段は千葉縣農村某小學校の虚僞率を表はす。

この種の研究に於ては、種々の條件例へば檢査の機會、檢査者と被檢査者との親疎或は已知と未

知の關係、檢査方法、刺戟等の微妙なる差異が結果に可なりの差異を生じ易いので、他の研究者の結果と數量的に比較することは却々困難である。今試みに少し比較して見たのが第九表である。表中の數字は百分率を表はし、第一部門と第三部門とは第三學年女兒の結果であり、第二部門は第六學年女兒の結果である。但し今村氏の結果(三)は入學試驗の際のものであり、ツイリッヒ(四)の結果は檢査者のよく知る兒童に對するものである。

第　九　表

檢査　第一，第二，第三ノ各部門ノ虚僞セル者ト虚僞セザル者トノ百分率ニヨル他ノ研究者トノ比較。第一，第三兩部門ハ三年女兒，第二部門ハ六年女兒ノ比較。

研究者別	檢査部門 / 虚僞，不虚僞	第一	第二	第三
今村	虚僞セル者		66	
	虚僞セザル者		34	
Maria Zillig	虚僞セル者	17.4		96.1
	虚僞セザル者	82.6		3.9
西谷	虚僞セル者	43	80	100
	虚僞セザル者	57	20	0

第　八　表

男女ノ性別的ニ見タル虚僞セル者ト虚僞セザル者トノ百分率。

（女兒ヲ男兒ト同數ト見做ス）

性別	虚僞，不虚僞	虚僞セル者	虚僞セザル者
男		44	6
		45	5
女		49	1
		46	4

第四部門

この部門の檢査に關してツイリッヒは「兒童と久しく知り合つてゐるに拘らず、個々の供述の眞實さを確言することは勿論出來なかつた」が全般的に見て推測されるとなしてゐるが、(五)筆者は兒童に對して全く未知であり、又時間の都合上擔任の先生と談合することも出來なかつたので、兒童が果して嘘をついてゐるか否かを判別すべき標準を持ち合せなかつた。たとへある兒童が積極的判斷全部(十個)に○印を附して、それらが自分の性格及び行動に適合してゐると主張したところで、

第十表

檢査第一，第二，第三部門ノ虚僞ノ合計ト檢査第四部門(羞恥)及ビ學業成績トノ相關。

年級別	性別	虚僞ト第四部門(羞恥)トノ相關係數	虚僞ト學業成績トノ相關係數
三年	男	+0.47	+0.38
		+0.21	+0.09
	女	+0.28	+0.28
		+0.57	+0.65
四年	男	+0.91	+0.45
		+0.60	+0.50
	女	+0.54	−0.11
		+0.80	−0.60
五年	男	+0.23	+0.54
		−1.00	+1.00
	女	+0.49	+0.08
		−0.80	+0.40
六年	男	+0.13	+0.14
		+0.36	+0.50
	女	+0.34	+0.49
		±0.00	+0.80

それを以て直ちにその兒童が嘘をついたと判斷することは出來ない。故に筆者は積極的判斷に○印を附した數と第一部門、第二部門及び第三部門の虚偽數の合計との相關關係を求めることにした。それは第十表及び第十一表に示されてゐる。

第十一表

檢査第一，第二，第三部門ノ虚偽ノ合計ト檢査第四部門(羞恥)トノ相關。

相關係數 / 團體別	虚偽ト第四部門（羞恥）トノ相關係數
東京某少年指導會	+0.80
千葉縣某學園	+0.80

第五部門

この部門の檢査に於てもその眞偽を正當に判別することは恐らく不可能であらう。たゞしこの種の質問によつて、ツイリッヒもいつてゐるやうに「兒童の自慢欲は全く信ずべからざる陳述をなすに畏縮しない」(六)ことが明らかに觀取されるやうに思はれる。ツイリッヒの研究(七)にも二百冊の書物を持つてゐるとか、二十足の靴を有つてゐるとか、百時間休まずに歩けるとか、四十五箇の林檎をつゞけ樣に食べられるといふ報告があらはれて居るが筆者の得た結果にも左の如き驚くべき數が現はれた。

一「アナタハ自分ノ本ヲ何冊持ッテキマスカ」に對し、

東京山手某小學校に於て五十冊以上と解答したものが、三年男(五十九名)に八名、最高は百五十冊、三年女(六十名)に十名、その中に百六十七冊、二百冊、三百四冊、三百五十冊が夫々一名づゝあり、四年男(六十四名)に八名、その中に百六冊、百五十冊等が夫々二名づゝあり、四年女(五十四名)に八名、その中、百冊以上、七百九十五冊が夫々一名づゝあり、五年男(六十一名)に十四名、その中二百冊、二百三十冊、二百五十冊が夫々一名づゝあり、五年女(五十七名)に九名、その中百冊以上、二百五十冊が夫々一名づゝあり、六年男(百七名)に三十五名、その中で最高は百六十冊であり、六年女(九十四名)に十六名、その中「想像つかず」等があつた。

千葉縣農村某小學校に於て、五十冊以上と解答したものが、三年男(二十六名)に二名、最高八十冊、三年女(十六名)には一名もなく、四年男(二十四名)に六名、最高は百十冊であり、四年女(十六名)に二名、最高は五十冊であり、五年男(九名)に一名ありて、七十三冊と解答し、五年女(十六名)に五名、その最高は八十九冊であり、六年男(二十三名)に十名、その最高は百十六冊であり、六年女(十八名)に五十冊位が一名あつた。

二、「アナタハ自分ノ着物(洋服ヲ入レナイ)ヲ何枚持ッテキマスカ」に對し、

東京山手某小學校に於て、二十枚以上と解答したものが、三年男(五十九名)に二名等しく四十枚と解答し、三年女(六十名)に七名、その中三十枚が二名、五十枚が三名、八十枚が一名あり、四年男(六十四名)に一名、それは四十五枚と解答し、四年女(五十四名)に七名、その最高は五十枚であり、五年男(六十一名)には一名もなく、五年女(五十七名)に四名、その最高は四十五枚であり、六年男(百七名)に二名、その最高は六十枚位であり、六年女(九十四名)に十八名、その中六、七十枚位「澤山あつて數へ切れぬ」が一名づゝあつた。千葉縣農村某小學校に於て、十枚以上と解答した者が、三年男(二十六名)に六名、その最高は十九枚であり、三年女(十六名)に十三名、その最高は四十九枚位であり、四年男(二十四名)に一名、その解答は二十五枚であり、四年女(十六名)に九名、その中凡そ三十枚、五十一枚が一名づゝあり、五年男(九名)に四十一名と解答した兒童一名あり、五年女(十六名)に十三名、その中二十八枚が最高であり、六年男(二十三名)に五名、その最高は二十五枚であり、六年女(十八名)に四名ありて最高は二十枚であつた。

尙問題五に對しても可なり多い數の解答が現はれた。

かくの如き解答には或は誤れる數觀念が働らいてゐるかも知れない。

四　虚偽と學業成績との關係

理智的卓越と道德的行爲とは互に關聯してゐると一般に考へられてゐるやうである。然し吾々は智能劣等なる兒童が道德的にも劣等であり、從つて嘘をつくことを見聞すると同時に、智能優秀なる兒童も道德的に劣等であり從つて嘘をつくことをも屢見聞するところである。然らば虚偽と理智とは如何なる關係にあるであらうか。ツイリッヒは兒童の虚偽と智能との關係を調査して次の如くいつてゐる。「集中能力の缺除と虚偽との間には明瞭な關係がある。劣等な記憶と虚偽との間の關係は弱い。すぐれた結合能力と虚偽とは相關聯してゐる。反之一般的な空想の才能と虚偽との間には何等の關係も證明されない。虚偽と被暗示性との間には明瞭な關係が現はれない。嘘をつく子供が一般に理智的に甚だしく劣等であるといふことは出來ない。嘘をつく傾向の少ない子供は嘘をつく傾向の強い子供より一般に智能優秀である。然しこれらは智能檢査及び學校の試驗に於て一般に組の平均的水準に在る。」(八)

筆者は兒童の最近學年の各學科の綜合成業と虚偽との關係を調べて第十表の如き結果を得た。

五　虚偽と座席との關係

筆者は前述の如く兒童に虚偽すべき機會を與へようとしたのであるから、兒童の各席は殆ど平等の無監督下に在るものと考へ得る。故に普通の監督下に在る場合とは可なり趣を異にしてゐる筈である。東京山手某小學校に於ける調査の結果(九)はあまり多くの意味を見出ださなかつたので、他の團體兒童に於ては調査しなかつた。

六　結果の總括

以上の結果を總括すれば次の如くである。

(一)如何なる兒童も無條件に虚偽しないと斷言し得ないであらう。(第一表乃至第六表參照)

(二)第一部門及び第二部門に於ては、虚偽率と學年の進行との間に、必ずしも明確な關係を認め難いが、第三部門に於ては逐年的に虚偽率が減少する傾向を認めることが出來る(第一表及び第二表參照)。三部門の結果を合計する時には、多數の問題に就いての虚偽率は逐年的に減少するが、少數の問題に就いての虚偽率は却て增加するやうである。然し一般的に云へば虚偽率は逐年的に減少して行く(第四表參照)。これは教育の影響と兒童の精神的發達を指示するものとして、誠に欣快に堪へない。

(三)團體別的には、たとへ差異ありとするも極めて僅少である。但し田舍の兒童は都會の兒童に比して正直であるかも知れないとの筆者の豫想は裏切られた(第一表乃至第七表參照)。特殊教化團兒童の虚偽率が少ないのは意外であつた(第三表、第六表、第七表參照)。多少條件は異るがツイリッヒの場合に於てもさうである。

(四)性別的には俄かに結論をひくことは出來ないやうである。成程虚偽せる者と虚偽せざる者とに大別する時には、女兒が男兒より幾分多い虚偽率を持つてゐる(第八表參照)。又第四部門及び第五部門の檢査に於てもさうであつた。然し個

々の部門に就いて吟味すれば、さう簡單に斷定し得ない(第一表、第二表、第四表、第五表參照)。この點に關してもツイリッヒの結果と略相等しい。

(五)第九表に於けるツイリッヒの結果との比較は、虛僞に關する民族差異の一指標とも考へられるが、先に述べた如く檢査條件が異ると思はれるので、多くの意味を見出だすことは出來ない。但し第三部門の差異は極めて僅少である。更に個々の場合を性質的に比較する時は、ツイリッヒの結果と筆者の結果との間に殆ど差異を見出だし得なかつた。

(五)第四部門の檢査は直接に數量的に取扱はなかつた(第四部門の檢査方法參照)。然し兒童は自己の評價に於て、個性の消極的方面を陰蔽し、積極的方面を誇示する目的の爲に虛僞することあるを十分に考慮する必要がある。

第四部門(羞恥)と虛僞との間に、二組の例外を除いて幾分積極的關係が認められることは第十表の示す通りであり、特殊教化團體兒童に於ては、その關係の度が遙かに高い(第十一表參照)。

(六)學業成績と虛僞との間にも二組の例外を除いて、大體に於て積極的關係が認

められる(第十表參照)。

(七)第五部門の質問の解答は數量的に處理しなかつた(第五部門の檢査方法參照)。然し兒童が自慢欲より虚偽することあるは想像に難くない(檢査結果の第五部門參照)。

七　結　語

最後に虚偽の教育的意味に就いて一言したい。本調査は云はゞ兒童の虚偽に對する一診斷であるが、それによれば、前述の如く如何なる兒童も絶對に虚偽しないと考ふる譯には行かない、殊に直接利害關係のある事柄に就いて、而も危急の場合には如何なる兒童にも虚偽への傾向が強く現はれると考へられる。そこで教育者や兩親は常に之を念頭に置く必要があらう。然し之をあまりに過大視し以て、兒童を罪人扱ひにすることも亦勿論誤りであらう。

ツィリッヒは學童に現はるゝ虚偽の主なる源泉を教育制度に歸して、人格發展、價値教育を論じつゝも、現代の教育制度に於て一切を支配するものは、學業成績で

ある。(故に)學童はあらゆる手段を以て立派な成績を擧げ他に一歩拔んでようと努める。その場合には虛僞も亦共働(一〇)するに違ひない云々と述べてゐる。この說の當否は暫らく置き、敎育的に見て重要なる事は、醫學の方面に於ても診斷醫學、治療醫學より寧ろ豫防醫學が重視されてゐると聞くかの如く、虛僞の發生を未然に防ぎ、もし發生した場合には、個別的に精細に分析し、その動機、目的を發見して、適當なる機會敎育を施すことである。

シュテルンは虛僞の病氣が生ずる時には、所罰と非難とによつて素人療法をせずに、その病氣の溫床を絕無ならしむるやうに豫め注意することが肝要であるとして(一一)、虛僞豫防の要領を說いてゐる。便宜上箇條的に採錄して見よう。

(一)子供に對して眞實であれ。「おとなしくして居ればチョコレートを上げるよ」(實際にはその約束を守らずに)とか、(泣き叫ぶ子供の氣分を轉換せしむる爲に)「一寸御覽！あそこに猫が歩いてゐる」とかいふ如き、好んで用ひらるゝ成人の欺瞞はいふまでもなく無害のやうに思はれる。然し子供はそれらの欺瞞によつて先づ誰かを故意に欺くことが出來ることを學び知る、而して次には子供の强い模倣衝動は子供を驅つて實際の欺瞞に至らしむるかも知れない。またこれによつて深く信賴してゐる子供の心の中へ、敎育者に對する不信用が播種されるであらう。

子供に、はつきりと嘘をつかせる場合(好まない訪問客のあつた時、今お父さんは留守ですとお客

にいふことを子供に命ずる場合の如く)には殊に有害なる作用を及ぼす。

(二)所罰に際しては嚴なるを避けよ。瞬間的衝動的な虚僞がなされる場合に於ても、寛大なる心を以て、自己矯正と正直への橋を拓いてやれ。

(三)他面に於て子供を過度に神經質的に世話をやいたり、惡習に染ましむることを止めよ。蓋しこれによつて子供は揑造した苦痛を訴へて、あらゆる希望を遂行するに至るから。

(四)無用の質問を避けよ。蓋し根堀り葉堀り質問することは、たゞに無意識的な記憶の誤りに導くのみに止まらず、結局意識的な不正直に導くことにもなるから。いふまでもなく質問者は全く一つの解答を得たいと欲してゐるやうに見える――かくして子供は質問者の意を迎へて、うるさい質問を打ち切らせる何かの事をいふのである。

(五)子供にあまりに早く虚僞の概念を押しつけ、そしてその概念を道德的に高調する勿れ。すべての害のない記憶の誤、氣まぐれ、脱線を「お前は嘘をついてゐる」といふ風に燒印を押さないやうに注意せよ。而して虚僞の實際の場合をもあまり誇張しすぎるな。

(六)子供を自己責任と自發性の發達により、虚僞に對する活潑な戰友たらしめよ。社會生活に於ては、最も保護された環境に於てすら、子供は他人の虚僞を知らずに生活することは出來ず又虚僞しようとする自己の誘惑を受けない譯には行かない。一般的には、兩親から克己の意味を敎へられた子供は己れの怒りを和らげ、他人のために、自分の喜びを諦め、不正直を自白し、それどころかある滿足を感ずることを學び、己れを支配するに至らば虚僞せんとする誘惑に打勝つことが出來るであらう。

シェープスは學童の虚僞所理法として、經驗に基づいて次の如き方法を述べてゐる。(一三)

(一)兒童の欺瞞の術(Betrugstechnik)を精密に知ることが必要である。欺瞞が盛に行はれてゐる學級を、正直の德目へ敎育する爲には、「私はみんなの嘘をつく仕方をよく知つてゐるぞ」といふことを、事實によつて兒童に示すことが必要である。

(二)日日の學校生活は、卑劣なる團體精神に對抗して、高尙なる品位を確立する爲の戰場であるといふことに就いて、機會敎育を施すことが必要である。

(三)敎育者と兒童との間に相互信賴の雰圍氣をつくることが正直の涵養に對する根本的前提の一つである。この雰圍氣によつて、兒童の名譽感は喚起され、また强められるのである。

(四)敎育者自らが正直でなければならぬ。而して先づ敎育者は兒童と共に、權威としての眞實に服することが必要である。兒童に「正直なれ」と敎ゆることにとつて、最も必要なことは、敎育者自らが正直なることである。敎育者が兒童の前に百科辭典を繰りひろげようと欲することは全く誤りである。次に敎育者は向上發達の過程に在る人で、出來あがつた人ではない。吾々は互に手を取り合つて、山の頂に攀ぢ登るのである――極めてゆる〳〵と一歩一歩と。――一回の克己、自分に對する一回の勝利、一回の正直、それらは夫々悉く吾々をして一歩高く登らしむるものである。

(五)鼓舞と稱讚の敎育は道德的向上の爲の戰、かくして兒童の虚僞に對抗する戰に於ても絶對に必要である。兒童が以前の過失を犯した時、之を道德的缺陷と認めて「お前はほんとうに復嘘をついたな」(復)といふ言葉は、如何に脅威的響を持つことか)とか「お前はほんとうに能なしだ」と叱責して、兒童の劣等感を喚起してはならない。さうすると、次には兒童は不安か意氣沮喪から虚僞するに

至るであらう。故に寧ろかゝる過失は兒童の本性には屬せざるものとして、禁止したり、所罰したりせずに「お前がしたやうなことは、人にはあり勝ちのことだ」といつて、靜かに諭すことが兒童と道德的に交はつて行く正しい基礎である。

却説シュテルンは抑々の虛僞の發生を未然に防ぐ方法及び虛僞發生の場合の治療法を併せ說き、シエープスは學童の虛僞に對する處理法を說いてゐるが、それらは何れも虛僞の敎育的意味に對する筆者の前述の考慮を裏書きしてゐるものといへる。但し以上の方法のみを以て果して子供の虛僞を實際に豫防し得るか否か或は治療し得るか否かは、もとより疑問である。敎育者及び兩親は相携へて、可なりの程度まで自由に形造ることの出來る子供をよく洞察し、個別的に對處し以て、その肉體的陶冶及び理知的陶冶(學的判斷力の養成)と相並んで或はそれら以上にエートスの陶冶(道德的判斷力の養成)に心すべきであると思ふ。眞實性への陶冶こそ最も堅實なる國民を養成する基本條件である。

(一) M. Zillig: Experimentelle Untersuchungen über die Kinderlüge, *Zeitschrift für Psychologie*, Bd. 114, 1930 S. 9.

(二) 虛僞を調査する方法は、筆者の用ひた五部門以外尙多數擧げることが出來る。本調査に於

ては主として時間の都合上五部門に限つたのである。

(三) 今村正一「カンニングに對する一考察」、教育心理研究第十卷第九號、二六頁—三〇頁。

(四) M. Zillig 前掲の論文、二〇頁

(五) M. Zillig 前掲の論文、一九頁

(六) M. Zillig 前掲の論文、一五頁

(七) M. Zillig 前掲の論文、一五頁

(八) M. Zillig 前掲の論文、五五頁

(九) 筆者の「兒童の虚僞に就いて」。教育心理研究第十一卷第三號、二五頁。

(一〇) M. Zillig 前掲の論文、八三頁

(一一) W. Stern: Psychologie der frühen Kindheit, 1930, S. 499—500.

(一二) H. Schoeps: Kinderlügen, ihre Motive und ihre Behandlung, 1931, S. 20—25.

(一三) 本論文中の第一表乃至第九表の數字はすべて百分率である。その實數は教育心理研究第十一卷第三號及び應用心理研究特輯號(應用心理研究第四卷第三號)に記載されてゐる。

終りに本研究に際し多大の便宜を與へられた東京山手某小學校、千葉縣農村某小學校、東京某少年指導會及び千葉縣某學園の諸先生及び非常なる援助を惜まれなかつた小池喜代藏、中河原通之、金子秀彬三君に深く感謝の意を表したい。　尙結

果の整理に協力を得た戰傷死した義兄と病にたほれた義弟とにもこゝに厚く感謝を捧げる。